

世界子ども平和会議閉会式
International Youth Peace Forum Closing ceremony

INTERNATIONAL YOUTH
PEACE FORUM



世界子ども平和会議
クロージングセレモニー

被爆 70 周年 平和は長崎から

原爆投下から70年目の節目を迎えた長崎での
平和を願うさまざまな取り組みを振り返ります。

原爆被爆対策部	調査課	☎ 829-1147
	平和推進課	☎ 844-9923
	被爆継承課	☎ 844-3913

- 特集
- 市政
- 長崎市民
- プレゼント
- 生活情報
- 健康
- 子育て
- 福祉
- 被爆者援護
- 講演・講座
- もよおし
- おしらせ
- 募集



被爆70周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典



特集

市政

長崎市民

プレゼンター

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

届け、被爆地・長崎の思い

8月9日、被爆者や遺族のほか、安倍首相や世界各国の代表など約6千人が参列し、被爆70周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が平和公園で執り行われました。

式典では、田上市長が長崎平和宣言で、被爆と戦争の記憶の重要性を指摘し、次の世代への継承を呼びかけるとともに、若い世代の人々に対し、被爆者の平和への思いを受け止めて「平和のためにできること」を考えてみようと呼びかけました。

また、世界各国の首脳に対し、核兵器禁止条約などの法的枠組みを議論するよう求めるとともに、70年前、原子雲の下で何があったのか、長崎や広島を訪れて確かめるよう求めました。

さらに、被爆者代表の谷口稜暉さんが「平和への誓い」を読み上げたほか、被爆者合唱団「ひまわり」、城山小学校の児童、純心女子高等学校の生徒の皆さんによる合唱なども行われ、原爆犠牲者の冥福を祈りました。

8月9日の前後には、被爆者の思いを受け継ぎ平和の大切さを発信するため、さまざまな行事が開催されました。



ともじび 平和の灯

8月8日に、平和公園で、平和への願いをこめたメッセージを書き入れた手作りのキャンドルをともし「平和の灯」が開催されました。

キャンドルの淡い光に包まれるなかコンサートも開催され、歌声を通して平和への思いを夜空に響かせました。

“おやこ記者”による取材

8月8日から11日に、全国から選ばれた9組の親子が長崎を訪れ、「おやこ記者」として平和関連行事や平和のための活動に取り組む人などを取材し、新聞にまとめました。

おやこ記者が取材を通して平和について学んだ内容をそれぞれのまちに帰って報告することにより、平和の輪が広がっています。



青少年ピースフォーラム

8月8日から9日に、長崎の高校生から20代の若者たちで構成される青少年ピースボランティアが中心となって開催しました。

全国の平和使節団の子どもたちと平和公園や被爆建造物を巡るフィールドワークなどの平和学習を行い、交流を深めました。



長崎平和宣言



特集

市政

長崎市民

プレゼンター

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

5

昭和20年8月9日午前11時2分、一発の原子爆弾により、長崎の街は一瞬で廃墟と化しました。

大量の放射線が人々の体をつらめき、想像を絶する熱線と爆風が街を襲いました。24万人の市民のうち、7万4千人が亡くなり、7万5千人が傷つきました。70年は草木も生えない、といわれた廃墟の浦上の丘は今、こうして緑に囲まれています。しかし、放射線に体を蝕まれ、後障害に苦しみ続けている被爆者は、あの日のことを1日たりとも忘れることはできません。

原子爆弾は戦争の中で生まれました。そして、戦争の中で使われました。

原子爆弾の凄まじい破壊力を身をもって知った被爆者は、核兵器は存在してはならない、そして二度と戦争をしてはならないと深く、強く、心に刻みました。日本国憲法における平和の理念は、こうした辛く厳しい経験と戦争の反省の中から生まれ、戦後、我が国は平和国家としての道を歩んできました。長崎にとっても、日本にとっても、戦争をしないという平和の理念は永久に変えてはならない原点です。

今、戦後に生まれた世代が国民の多くを占めるようになり、戦争の記憶が私たちの社会から急速に失われつつあります。長崎や広島に被爆体験だけでなく、東京をはじめ多くの街を破壊した空襲、沖縄戦、そしてアジアの多くの人々を苦しめた悲惨な戦争の記憶を忘れてはなりません。

70年を経た今、私たちに必要なことは、その記憶を語り継いでいくことです。

原爆や戦争を体験した日本、そして世界の皆さん、記憶を風化させないためにも、その経験を語ってください。

若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。「私だったらどうするだろう」と想像してみてください。そして、「平和のために、私にできることは何だろう」と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。

世界の皆さん、戦争と核兵器のない世界を実現するための最も大きな力は私たち一人ひとりの中にあります。戦争の話に耳を傾け、核兵器廃絶の署名に賛同し、原爆展に足を運ぶといった一人ひとりの活動も、集まれば大きな力になります。長崎では、被爆二世、三世をはじめ、次の世代が思いを受け継ぎ、動き始めています。

私たち一人ひとりの力こそが、戦争と核兵器のない世界を実現する最大の力です。市民社会の力は、政府を動かし、世界を動かす力なのです。

今年5月、核不拡散条約(NPT)再検討会議は、最終文書を採択できないまま閉幕しました。しかし、最終文書案には、核兵器を禁止しようとする国々の努力により、核軍縮について一歩踏み込んだ内容も盛り込むことができました。

NPT加盟国の首脳に訴えます。

今回の再検討会議を決して無駄にしないでください。国連総会などあらゆる機会に、核兵器禁止条約など法的枠組みを議論する努力を続けてください。

また、会議では被爆地訪問の重要性が、多くの国々に共有されました。

改めて、長崎から呼びかけます。

オバマ大統領、そして核保有国をはじめ各国首脳の方々、世界中の皆さん、70年前、原子雲の下で何があったのか、長崎や広島を訪れて確かめてください。被爆者が、単なる被害者としてではなく、「人類の一員」として、今も懸命に伝えようとしていることを感じとってください。

日本政府に訴えます。

国の安全保障は、核抑止力に頼らない方法を検討してください。アメリカ、日本、韓国、中国など多くの国の研究者が提案しているように、北東アジア非核兵器地帯の設立によって、それは可能です。未来を見据え、「核の傘」から「非核の傘」への転換について、ぜひ検討してください。

この夏、長崎では世界の122の国や地域の子どもたちが、平和について考え、話し合う、「世界こども平和会議」を開きました。

11月には、長崎で初めての「パグウォッシュ会議世界大会」が開かれます。核兵器の恐ろしさを知ったアインシュタインの訴えから始まったこの会議には、世界の科学者が集まり、核兵器の問題を語り合い、平和のメッセージを長崎から世界に発信します。

「ピース・フロム・ナガサキ」。平和は長崎から。私たちはこの言葉を大切に守りながら、平和の種を蒔き続けます。

また、東日本大震災から4年が過ぎても、原発事故の影響で苦しんでいる福島の方々を、長崎はこれからも応援し続けます。

現在、国会では、国の安全保障のあり方を決める法案の審議が行われています。70年前に心に刻んだ誓いが、日本国憲法の平和の理念が、今揺らいでいるのではないかという不安と懸念が広がっています。政府と国会には、この不安と懸念の声に耳を傾け、英知を結集し、慎重で真摯な審議を行うことを求めます。

被爆者の平均年齢は今年80歳を超えました。日本政府には、国の責任において、被爆者の実態に即した援護の充実と被爆体験者が生きているうちの被爆地域拡大を強く要望します。

原子爆弾により亡くなられた方々に追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は広島とともに、核兵器のない世界と平和の実現に向けて、全力を尽くし続けることを、ここに宣言します。

2015年(平成27年)8月9日
長崎市長 田上 富久

城山小学校では、児童が「平和の願い」を大きな声で発表しました。

11時2分には全員で犠牲者に黙祷を捧げました。



学校では平和集会などが開催されました



山里小学校では、平和学習の成果を発表しました。

また、校内の防空壕や「あの子らの碑」の前で、平和を祈りました。



7月25日に、ろうあ被爆者をテーマにした舞台が上演され、手話を交えた熱演に観客から大きな拍手が送られました。字幕や音声ガイドで上映内容を伝えるなど、誰もが理解できる配慮がなされていました。

【明日】長崎原爆投下前日はなし 【演劇】



8月1日と2日に、公募された小学生から50代の市民を含む総勢23人が参加して上演されました。1945年8月8日を舞台に、結婚式を挙げた若者や出産を控えた妊婦などのささやかな日常を長崎弁で熱演しました。

キッズゲルニカ大会 in ながさき 【美術】



市内の小中学生約410人が平和への祈りを込めて描いた長さ70メートルの巨大壁画「キッズゲルニカ」が、8月6日から31日まで爆心地公園横の下の川斜面に展示されました。

被爆70周年記念事業

被爆70周年を迎え、「継承と発信」をテーマに音楽、演劇などさまざまな分野で、市民団体が主体となった8つの記念事業を実施します。

そのうち、7月から8月にかけて、5つの記念事業が開催されました。

平和祈念音楽祭 in 長崎 【音楽】



8月2日に、原爆犠牲者の鎮魂と恒久平和を願い、浦上天主堂で、公募による市民合唱団と市民オーケストラが共演しました。堂内には厳かなハーモニーが響き渡り、多くの観客を魅了しました。

浦上天主堂再現プロジェクト 【映像】



8月6日と8日に、浦上天主堂の被爆前後の様子を、立体映像技術「プロジェクションマッピング」で再現するイベントが開催されました。天主堂の壁面に投影された鮮やかな映像が多くの観客を魅了しました。

このほかにも、次のような記念事業が実施されます。

事業名	区分	開催時期
オペラ「いのち」	歌劇	①9月5日(土)午後6時～、②9月6日(日)午後2時～
レクイエム・プロジェクト長崎2015	音楽	9月22日(休)午後2時～
長崎の記憶と記録を掘り起こす	出版	平成28年3月ごろ出版予定

世界の子どもたちと平和な未来を描く

8月5日〜6日、世界122の国と地域の子どもたちが長崎に集まり、長崎や福島の中学生たちと交流しながら「平和について語り合う」世界こども平和会議が開催されました。

長崎市平和特派員で軍縮教育家のキャサリン・サリバンさんが世界の核兵器の現状について紹介し、参加者同士で意見交換を行いました。



平和のメッセージを描いた横断幕を持って、約230人の参加者が平和行進をしました。



「もし私が地球の大統領だったら未来の地球のために何をするか」をテーマに、グループで分かれて意見交換を行いました。

長崎の中学生が、英語を使って司会進行し、意見をまとめました。



全ての市立中学校の生徒たちが、「中学生記者」として、会議の様子を熱心に取材していました。



クロージングセレモニー（閉会式）では、「学校をたくさん作り、教育の機会を広げる」や「病院を増やして全世界の人々を健康にする」などの、地球大統領としてのさまざまな“所信表明”がなされました。



所信表明を書いた花の形の紙を、世界地図のモザイクアートに貼って、世界中に花が咲いたピースアートが完成しました。

その後、会場の参加者全員で、東日本大震災の復興応援ソング「花は咲く」を英語で合唱しました。



世界に平和の種がまかれました

各国の参加者には、市内の大学生などの若い世代が制作した平和発信ガイドブック「STEP」が配布されました。参加者は、自分の国に戻った後、世界こども平和会議で話し合った内容やSTEPをもとに、身近なところから平和の発信をはじめています。2日間の会議を通して長崎で生まれた平和の種が世界中でどのように育っていくのか、これから楽しみです！



特集

市政

長崎市民

プレゼン

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集